

こんにちは！

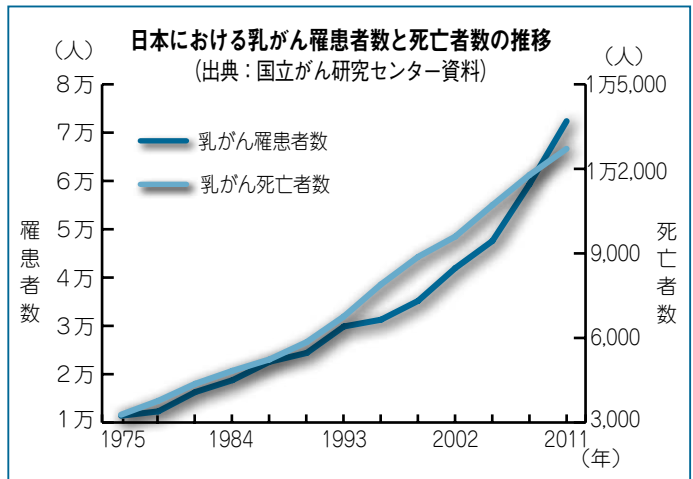
村立東海病院であ



乳がんは、女性のがんのトップです

近年、日本では乳がんにかかる人(罹患者)と乳がんでなくなる人(死亡者)の数が、共に増加傾向にあります(右グラフ参照)。

また最近では、乳がんにかかる女性は“12人に1人”といわれており、2014年には1万3,420人の方が亡くなっています。年齢で見ると、乳がんにかかる人は30歳代後半から増え始め、40歳代後半から50歳代前半にピークを迎え、その後は緩やかに減少していきます。がんによる死亡原因を全年齢層で見ると、大腸、肺、胃、膵臓に次ぐ5番目ですが、働き盛りの30歳から64歳の女性においては、1位となっています。



乳がん検診を受けて、早期発見・早期治療！

乳がん検診では、視触診やマンモグラフィ、超音波検査などを行い、精密検査を受けた方が良いかどうかを見極めます。早期にがんを見つけて治療することで、乳がんによる死亡率を下げることを目的としています。

【視触診】

乳房を観察して、くぼみやしこりがないか、リンパ節が腫れていないか、乳頭から分泌物がないかなどを診ます。発見できる病変は、ある程度の大きさのものに限られます。

【マンモグラフィ(乳房X線検査)】

乳房を板で挟んで平たくしX線で撮影します。視触診や自己チェックでは発見できないしこりや、石灰化のある小さな病変を見つけることができます。マンモグラフィ検診は、科学的に“死亡率減少に効果がある”とされています。

【超音波検査】

超音波を使って乳房を観察します。視触診や自己チェックでは発見できない病変を見つけることができます。死亡率の減少効果に関しては科学的に証明されていないため、現在、研究が進められています。

定期的に検診を受けましょう！

視触診で発見できる病変は、ある程度の大きさのものに限られます。また、マンモグラフィでも若い方や乳腺濃度の高い女性では検査に限界があるため、単独の検診では病変の発見が難しいとされています。当院では、原則として視触診にマンモグラフィまたは超音波検査のどちらかを併用した検診を行っています。この機会にぜひ、ご検討ください。



検診マンモグラフィ読影認定医／乳房超音波講習会試験認定 小栗 裕

【問い合わせ】村立東海病院(☎282-2188)、福祉保険課地域医療担当(☎287-0899)